

MUSIC CITY

TALKING ISLAND

コンサート ピックス

★コンサート・レビュー

チャゲ&飛鳥 IN 武道館

- 小林千絵 ●小森田実&ALPHA ●伊藤敏博
- 雅夢 ●野元英俊(クリスタルキング)

みのむし



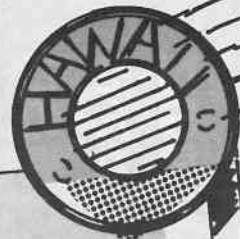
MUSIC
CITY

NSP SPECIAL

今回はちょっと趣を変えて、NSP3人の手作りによるみのむしを、お届けします。
この夏、NSPの3人は、何を見て、どんなことを考えて過ごしたのかな？
そんな3人それぞれの想いを、エッセイと写真で、みのむしっこだけに伝えてくれます。
NSP3人の「夏の絵日記」を、どうぞ!!

カメハメハ大王の楽園

天野 滋



さきまで何を考えていたのか、おもいだせない。細かい光の針で体をつつかれる痛さで、夢の中から呼び戻され、おもわず上半身を起す。前方には青い海と白い波、そして水平線。汗があごからしたり落ちて砂にしみこんでゆく。

「どこから来たの？」

「横浜です」

とても現実的な響きが僕の耳にとどく。

「今日、着いたばかりだね、きつと」

「まだ、焼けてないじゃん」

松田聖子が留学先と騒がれた、あのハワイ大学の学生と名乗る男の子たちが横浜からきた女の子たちをナンパしているらしい。このワイキキに限らず、世界じゅうの砂浜は若い男女の社交場だ。僕はカンの底に残っているコーラをぐいっと一気に飲みほした。なまぬるいコーラだった。

海の朝は早い。午前中はホテルのプールサイドで本をめぐり、ときどきプールの水に浮んでみる。午後にはゴザをかかえて海辺へ向う。(ワイキキではゴザがはやっていているらしい)といっても、ホテルを出て右足と左足を交互に二十回ほど踏み出せば、そこは海なのだ。

ハワイは日本からの観光客も多く、どこへ行っても日頃見慣れた造りの顔をみつけることができる。しかし、日本人観光客の評判はあまり良くないという。そのひとつに愛想のなさあげられる。見ず知らずの人に気軽に声をかける習慣は、日本にはないものねえ。日本人観光客は、エレベーターの中や廊下で微笑を投げかけられて、グッドモーニングとあいさつされた場合、目をそらせて、しらんぷりしてしまう。僕自身、心得ていたつもりだったけれど、ハワイの最初の朝、「おはようございますか」と話しかけられて、曖昧な表情しか作れなくて残念だった。しかし、相手も悪かったのだよ。

ホテルとワイキキだけじゃ退屈しはじめた三日目に、車で30分ぐらい離れたハナウマという美しい海岸へ行った。話に聞いたとおり、遠浅の沖の方まで泳いで行って、用意したパンをちぎって投げると、どこからともなく魚が集まってくる。まるで肉片に群がるピラニアみたいに思えて、恐くなった。ジョーズのことも頭に描いてしまったし。下半身をがぶつとやられて、僕の海水パンツが水面に揺ら揺らしているシーン。しん。

残っていたパンを遠くへ投げ、岸へもどろうとした時、水の中から大きな頭が浮び上がってきた。武田鉄矢だった。

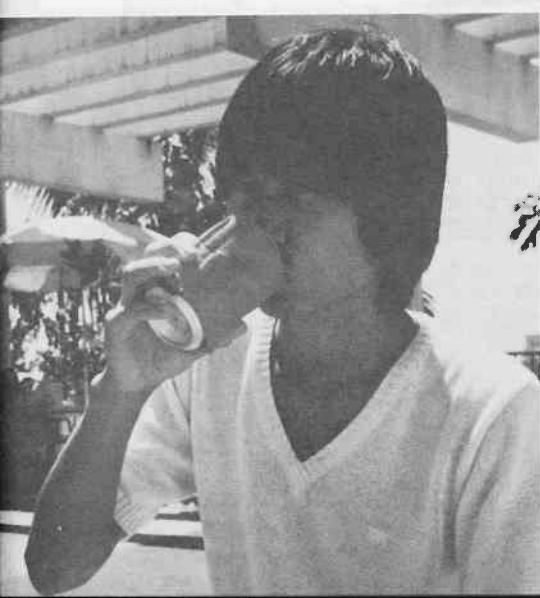
「あれ？こっちへきているの？」と鉄矢。

「うん」と首をたてに振る僕。ここは本当にハワイか、とても損をした気分になった。ところで、ハワイにはすずめやハトがいっぱいいたけれど、近くで顔をみると、日本に

いるものと少し違うような気がした。やっぱり、ハトなんかも外国だと顔が外人しているのか、特に目元が違うように思った。

夜の生活は、テレビ中心であった。ちゃんと日系人用のチャンネルがあるわけで、日本人観光客は退屈しない。だが、番組はひじょうに片寄っていた。あばれん坊將軍、遠山の金さん、特捜最前線など、善段決して見ることもない番組を真剣に見てしまった。しかも画面の下に英文のせりふが出るのだ。退屈なはずがない。英語のお勉強ができるはずなのであるが、読めない単語も多いし、速すぎてついていけない。深夜の「おしらせ」では、さかんにボンダンス(盆踊り)の告知をやっていた。

というわけで、僕のハワイ旅行はあっけなく幕を閉じたのである。これまてに行つたどの土地より、ハワイっていいみたい。最後に一つ、印象的だったのは、ホノルル空港へ向う帰りのタクシーの中で運転手がつぶやいて言葉、「ハワイはホントに良いところ。都会と田舎が一緒に共存している。しかし、日本の観光の人たちは、ツアーで来て、お決まりのコースしか体験せずに帰ってゆく。残念です」ツアーは楽しいけれどね。





人

のレコードをプロデュースするのが夢

てした。自分の考えや自分の思った音を、レコードに出す事が出来る——これが現実となったのです。約一ヶ月間、ある時は座敷牢に閉じ込められている様な気持ちになったりして、精神的にいつも普通でいる事の大変さを知りました。反面、我れを忘れて無我夢中になる事のすばらしさを久し振りに思い出しました。それくらい大変な作業だったので、結局最後まで順調にいったのは、僕がプロデューサーとディレクターとTARAKOとの間に信頼関係が出来上がった事と、キャリア豊富なスタッフに恵まれたところにあると思っております。そして何と言っても、やるぞ！と思ったのは、ディレクターが、お金とか時間をあまり気にしないで好きな様にやって下さい、全面的に任せます、と言う言葉でした。今考えると大変なプレッシャーになるはずなのに、その時は何故か束縛されずに気が楽だ

な位の気持ちでした。

最もつらくて楽しかったのは、自分がアレンジャーでプロデューサーであることでした。

自分がアレンジャーに入ってしまったので、それをまた自分で冷静に本当にこれかいいのもっと他にないかと、別の自分と言いつ争いをするのです。頭がバクシしようでした。

スタジオに入って音が出るまで不安でした。そういう意味もあって、ミュージシャンは心の知れた人たちを使いました。もちろんそれだけではなく、僕の思った音を出してくれただけではなく、僕の思った音を出してくれ

るミュージシャンです。今回アレンジャーしてみてもわかった事は、ミュージシャンを選ぶ段階で、すでにアレンジャーに入っていると意識して、あとで聞いてもらえるとわかると思いますが、最初から最後までコンビネーション良いサウンドが心地良く体の中にしみ込んでいく事でしょう。ボーカルは、大変でした。TARAKOも一応二枚のLPを出している

し、僕には僕なりの歌って欲しい歌い方があるし、一時険悪になりかけましたが、やはりプロデューサーは強し。しかし、無理に強制したのではなく曲によって、この曲は、こうしようかと相談しながらです。TARAKOを全然知らない人がこのLPを聞いたら、きつと、どんな可愛い女の人が歌ってるんだらうと思うことでしょう。それ位TARAKOはうまく歌ってくれました。彼女の良いところは、本当に歌が好きだということ。僕は、本当にびつくりしました。ずつと昔から、とにかく出来上がりました。ずつと昔から、取りかかっていた様な気がして、とても、貴重な一ヶ月でした。皆さんは、このLPにNSPとは、ちよつと違う僕の音に気づいてくれるでしょうか。プロデューサー、それは多分、最終的にいいものを削り上げるために判断する人、だと今思っています。

MR. BASS



捧腹絶倒の軽井沢旅行記より



中村貴之

避暑地の夏と言うのは、どうにも心がはしやいで仕様のないものらしい。ラーメン一つ作るのにも御覧のとおり。我こそはラーメン博士なるぞ!!と長ネギを両手に大いばり



の体なので。自慢するわけではあるのだが、インスタントラーメンの味に関しては、天下第一なのだ。スタッフのU君なぞはそのラーメンのとりこになって日夜研究(?)に励み今では僕から「免許皆伝」のお墨付きをもらう程の腕前になってしまった。初日の夜は、自参したウイスキーをグイグイやりながら僕とマネージャーのI氏のツーマン・コンサートと相成った至第である。いや、次から次へ曲が出るワ出るワ最後には即興の創作曲(?)まで歌い出す始末…。写真は2日目の夜、一日遅れて到着した前出のスタッフU君の前でツーマン・コンサート(?)を演っているスナップである。I君の陶醉し切った目を見てよ…。きつと胸のうちでは華やかだったアーティスト時代を懐かしみつつ、今からでも俺は通用するかも知れない」と自信が芽ばえつつある表情に見える。

ともかくにも、心が騒いでしまうのもどう仕様もなく旧軽へ行く道すがら乙女に向かって「oh!! GAL!!」などと車の窓こしに声をかける。(車の窓は閉めきつており元々乙女には声が届かないというちょっとおじんにさしかかった暗さはどう仕様もないのだ)I君とU君と茶店でビールを飲みながら会話はあるのだが視線はおの／＼勝手なところをさまよい、どうにも会話が脈絡がなく、時々思い出したように相手の話に相槌を打ち、義理笑いを浮かべる。(げにいやらしくも悲しきかな男共よ)たまに可愛い娘に出食わすと、(ほんとにひどくたまになのだ。美人はどこ

へ行っているのだろう…)側には男がべったりはりついている。三人「チエツ!!ニヤロー!!」と声を発し、続いて何故かおきる「聖者の行進」の大合唱。(誰が歌い始めたのか定かではないが、三日間の間この歌は我々の間で大流行した)ほんとうにすこい乗りだった。

一つおもしろいエピソードがあった。昼飯を食べに入った小さなレストランで(なにせテニスウェアが溢れていて混雑していた)注文をとりに来た店員(?)に、その直前までオリンピックでの中国の活躍を話題にしていた僕は、心から中国人になりきってしまった。僕は、心から中国人になりきってしまった。一つの合計三つです、と言うところを「ハンパークでしょく二つ、ビーフカレーひとつ、こうけい三つあるよ」と、言ってしまったのである。するとその店員、一瞬「キョトン」とした後「ハンバーグ定食二つ、ビーフカレーひとつ、こけいもジュース三つですね。」いや。大爆笑であった。笑った途たん中国人から日本人にあわてて僕が戻ったのは言うまでもない。

こんな風に軽井沢での三泊四日は、はちゃめちゃに過こし続けてしまった。当初「曲作り」という目的があったのにそれは遙か彼方へ吹き飛んでしまった。今思えば僕が犯した2つのミスティクがある。第1は、一人じゃ煮つまるからとI君を誘った事。第2は、せっかくの夏休みを所在なげにしていたU君に、「お前も来るか?」とやさしい言葉をかけてしまった事だ…。あゝ己の性格のわびしさよ…。

NSP 秋のコンサート・ツアースケジュール 一部決定!!

- %出 佐世保体育文化会館コミュニティセンター 0956-33-5900 佐世保労音 ●%出 大分芸術会館 0975-34-9398 大分音楽友の会
- %出 天草本渡市民センター 0969-2-4263 天草勤労者音楽協議会 ●%出 枕崎市民センター 0993-2-27-3 枕崎勤労者音楽協議会
- %出 鹿屋市文化会館 099-2-23-8426 鹿児島労音 ●%出 栃木会館 0286-2-1-5441 スワット